

# 大山ダム水源地域ビジョン

**自然水源としての森、人工水源としてのダムとともに  
共生していく地域**

～ 100年後の世代のために、安定した水源・自然に戻していく森づくり ～

平成23年10月

## < 目 次 >

<b>I. 水源地域ビジョンの概要</b> .....	1
1. 水源地域ビジョン策定の目的 .....	1
2. 水源地域ビジョンの対象範囲 .....	1
3. 水源地域ビジョンの担い手 .....	2
4. 水源地域ビジョンの実施目標 .....	3
5. 計画の構成 .....	3
6. 水源地域ビジョン策定の方法 .....	4
(1) 水源地域ビジョン策定主体 .....	4
(2) 策定の手順 .....	6
<b>II. 水源地域の現状</b> .....	7
1. 大山ダムの計画 .....	7
2. 大山ダム関連の計画 .....	8
3. 大山ダム周辺の資源 .....	10
4. まちづくり活動の状況 .....	12
(1) 田来原 100 年の森づくり .....	12
(2) 作業部会構成員の取り組み .....	12
<b>III. 水源地域の目指す姿</b> .....	14
1. 水源地域の目指す姿（キャッチフレーズ） .....	14
2. 地域づくりの基本方針 .....	15
(1) 地域づくりの基本方針 .....	15
(2) 地域づくりの実施に向けた取り組み .....	16
<b>IV. 水源地域の目指す姿の実現に向けて</b> .....	17
1. 施策展開 .....	17
2. 既存資源の活用例 .....	19
(1) 資源とその活用方法・担い手 .....	19
(2) 特筆すべきポイント .....	23
3. 実現化の手順とスケジュール .....	26
4. 実現化の担い手 .....	26



# I. 水源地域ビジョンの概要

## 1. 水源地域ビジョン策定の目的

水源地域ビジョンは、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画である。

大山ダム水源地域ビジョン（以下、「水源地域ビジョン」という。）は、大山ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とする。

## 2. 水源地域ビジョンの対象範囲

活性化を図る対象となる水源地域ビジョンの対象地域は、基本的には大山ダム周辺の資源の分布状況などを勘案して、大山ダムの集水域を中心に、図 1-1 の赤い破線で囲まれた範囲とする。なお、連携域は日田市全域に及ぶ。

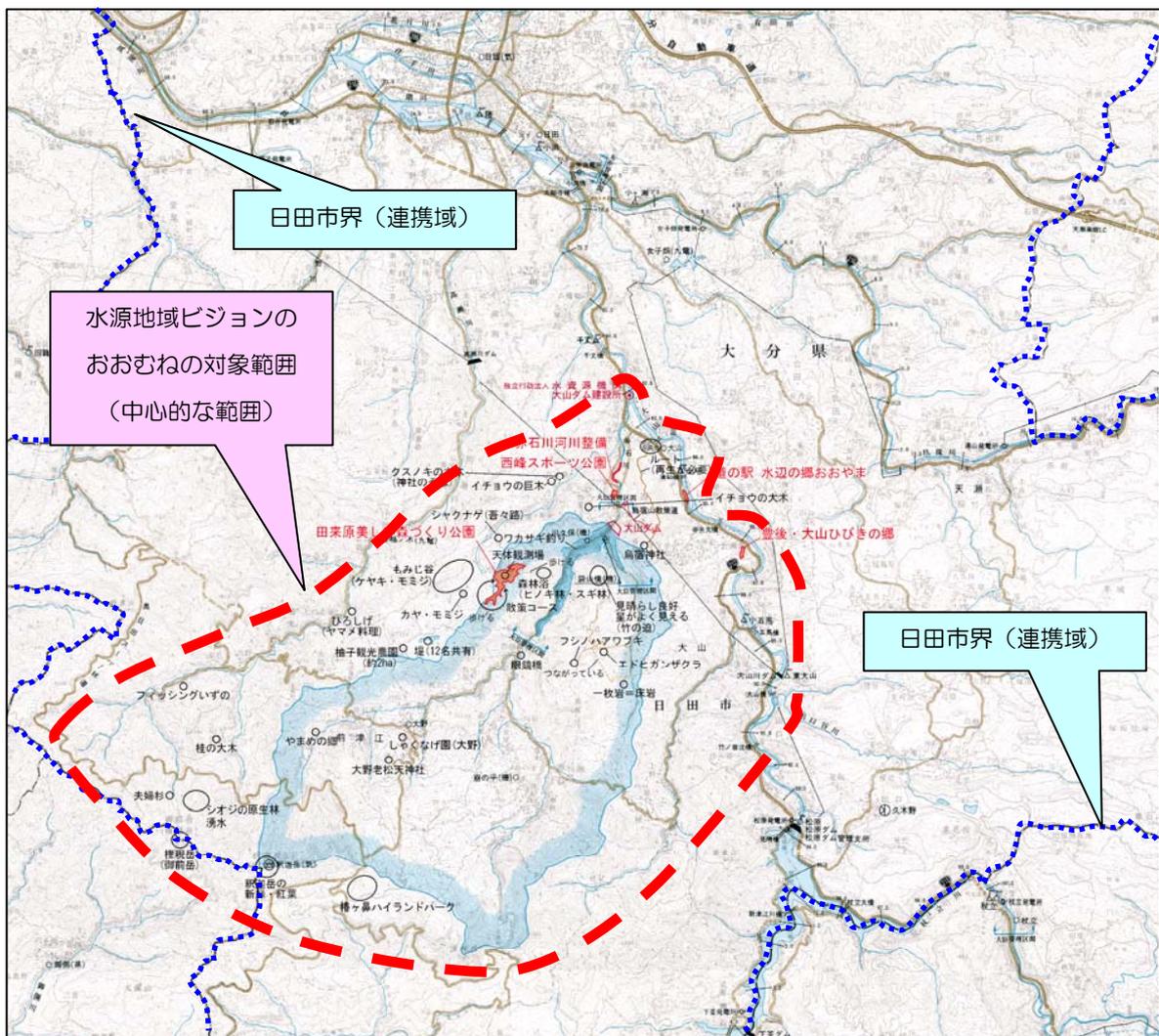


図 1-1 水源地域ビジョンの対象範囲図

### 3. 水源地ビジョンの担い手

水源地ビジョンの対象地域の活性化に携わる人（担い手）は、大山ダムの集水域やその周辺を含む日田市民を中心的な担い手とし、それに加えて、筑後川の流域、大山ダムの給水区域の住民も交流などを通じて携わることとする。

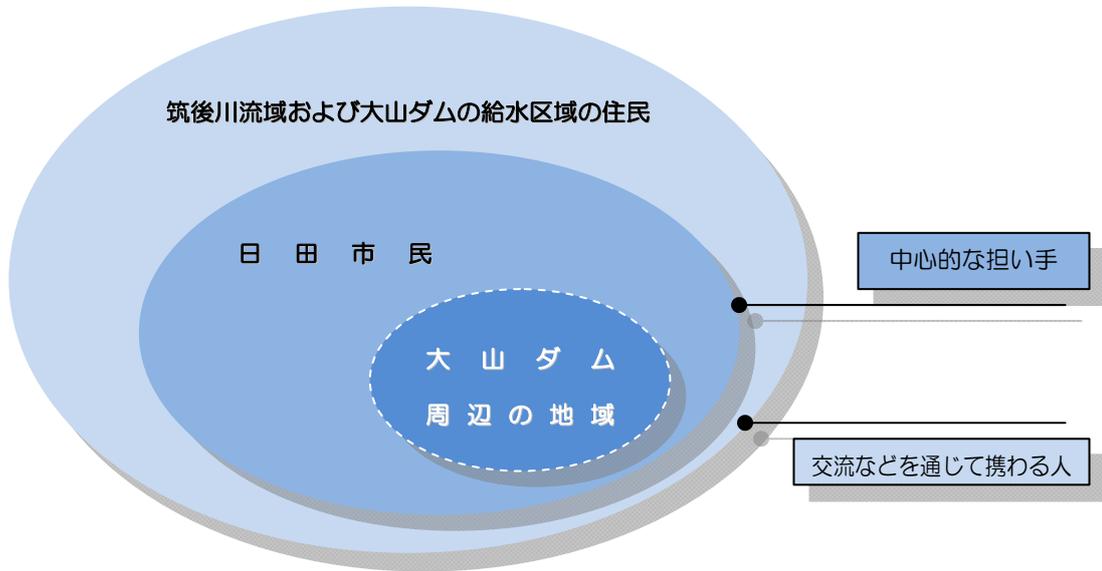


図 1-2 水源地ビジョンの担い手のイメージ図



図 1-3 流域圏の範囲図(イメージ)

#### 4. 水源地域ビジョンの実施目標

水源地域ビジョンの実施に向けた目標は、当初の目標期間として、平成 24 年度～平成 33 年度までのおおむね 10 年間とする。

なお、情勢の変化等必要に応じて計画の更新を行っていくものとする。

#### 5. 計画の構成

水源地域ビジョンの構成は、図 1-4 のとおりとする。

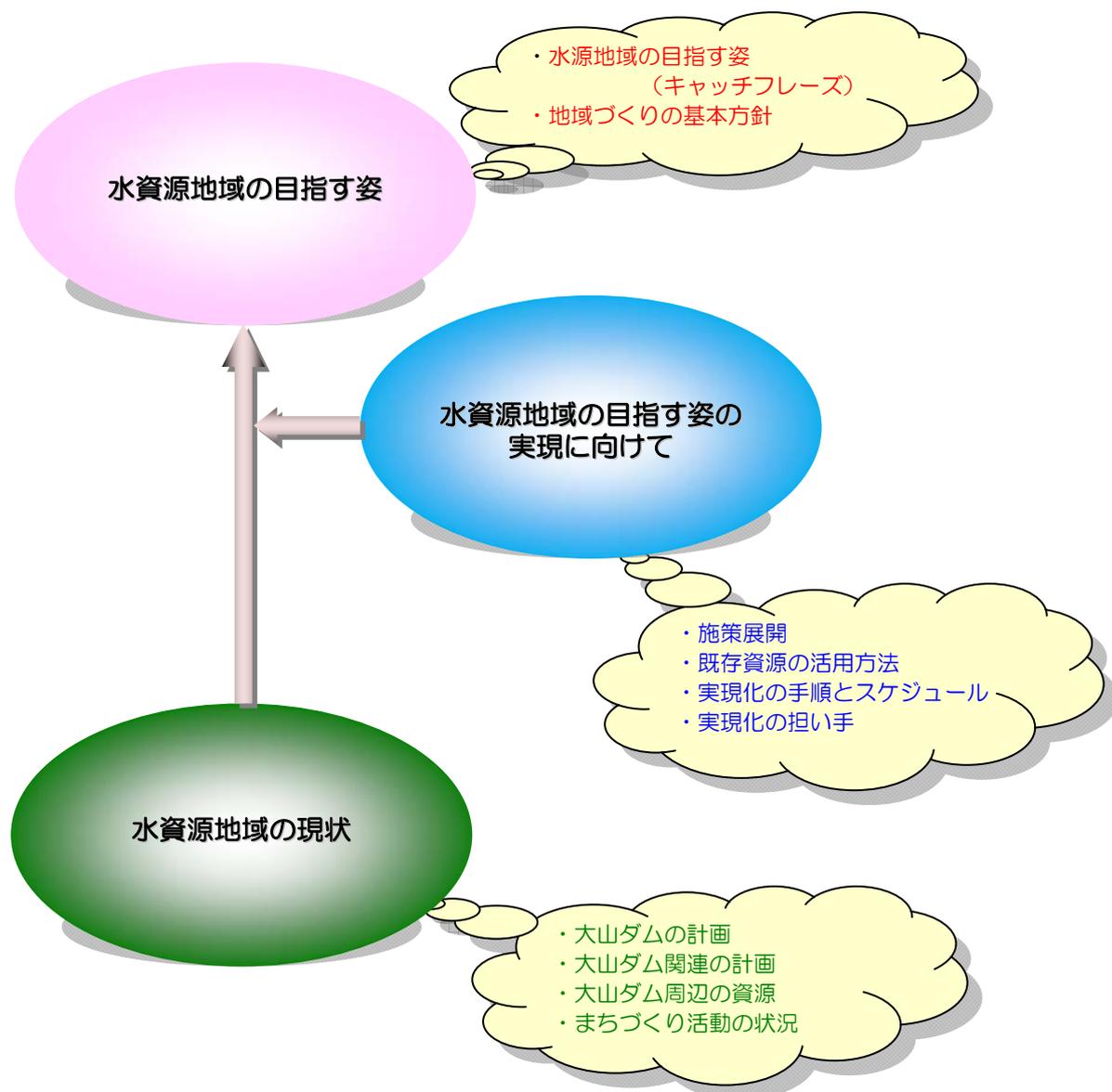


図 1- 4 水源地域ビジョンの構成図

## 6. 水源地域ビジョン策定の方法

### (1) 水源地域ビジョン策定主体

水源地域ビジョンの策定主体は、ダム事業者・管理者、関係自治体、地域住民等、大山ダムの受益者等から構成される「大山ダム水源地域ビジョン策定委員会（以下、「策定委員会」という）」が行う。

なお、策定委員会の構成委員は、表 1-1 のとおりである。

表 1-1 策定委員会構成委員表

氏名（敬称略）	対象	主な活動地域	専門分野	所属・職名
三苫 善八郎 【会長】	地域振興	大山	地域振興、地域連携	第八期水源地域エキスパート、(株)おおやま夢工房 社長、大山ダム建設促進協議会 会長
加留部 貴行 【副会長】	学識経験者	九州各地	まちづくり	九州大学大学院総合新領域学府客員准教授
栗野 久己	林業振興	大山	森林	老松生産森林組合 組合長
春末 禅	地域振興	大山	ダムサイト周辺地域振興	西峰老松地域総合開発委員会 委員長
緒方 英雄	地域振興	大山	地域振興	(株)おおやま夢工房 取締役総支配人
森 和恒	NPO 水環境・利用	大山	水環境	NPO大山水環境アスリート 理事長
川津 潔	NPO、水環境	大山	水環境	NPO筑後川上流倶楽部 代表
吉田 恒光	地域振興	前津江	ダム上流域地域振興	前津江地区地域審議会 委員 (第1回は長谷部公明)
佐藤 学	農林業振興 地域振興	前津江	森林 地域振興	JA大分わさび部会 副部会長、椿ヶ鼻ハイランドパーク 理事、林業家・ワサビ生産者
石丸 邦夫	観光振興	日田	観光	(社)日田市観光協会 会長
江藤 英二	漁業振興	日田	漁業	日田漁業協同組合 組合長
神川 建彦	NPO、林業振興	日田	森林再生	NPO初島森林植物園ネットワーク 理事長
諫本 憲司	NPO 上下流交流	日田	水環境	水郷ひた再生委員会 事務局長、 NPOひた水環境ネットワークセンター 前理事長
財津 俊彦	地域振興	日田	まちづくり	日田青年会議所 元理事長
園田 匠	地域振興	日田	まちづくり	NPOひた水環境ネットワークセンター 理事長 ストリームひた 直前代表
高倉 貴子	地域振興	日田	まちづくり	たかま.net 代表
<b>■役職の委員</b>				
原田 啓介			日田市	日田市長(第3回までは佐藤陽一)
小川 裕三			大分県	大分県西部振興局長(第1回は田中敏雄)
相場 公博			福岡県	福岡県県土整備部水資源対策課長 (第3回までは吉村静男)
西澤 義彦			福岡地区水道企業団	施設部長(第1回は平尾隆道)
木下 秀夫			福岡県南広域水道企業団	総務部長
諫山 立生			国土交通省	国土交通省筑後川ダム統合管理事務所長 (第1回は大塚強史)
池田 茂			水資源機構	独立行政法人水資源機構筑後川局長 (第1回は恒吉徹)
新屋敷 隆			水資源機構	独立行政法人水資源機構大山ダム建設所長
<b>■行政窓口</b>				
河津 武夫			日田市大山振興局	大山振興局長(第1回は朝井幸一郎)
三苫 誠			日田市前津江振興局	前津江振興局長 (第3回までは、長谷部仁治)
<b>■事務局</b>				
			日田市	日田市市民環境部水郷ひたづくり推進課長
			日田市	日田市地域振興部大山ダム対策室長
			水資源機構	独立行政法人水資源機構大山ダム建設所環境課長

また、水源地域ビジョン策定の検討のために作業部会を設置した。なお、作業部会の構成委員は表 1-2 のとおりである。

表 1-2 作業部会構成委員表

氏名（敬称略）	対象	主な活動地域	専門分野	所属・職名
加留部 貴行 【作業部会長】	学識経験者	九州各地	まちづくり	九州大学大学院総合新領域学府客員准教授
梅村 涼徳	林業振興	大山	森林	老松生産森林組合 理事
春末 禅	地域振興	大山	ダムサイト周辺地域振興	西峰老松地域総合開発委員会 委員長
緒方 英雄	地域振興	大山	地域振興	(株)おおよま夢工房 取締役総支配人
伊藤 勝治	NPO、水環境・利用	大山	水環境	NPO大山水環境アスリート 理事 (第1回は巨山邦生)
川津 潔	NPO、水環境	大山	水環境	NPO筑後川上流倶楽部 代表
吉田 恒光	地域振興	前津江	ダム上流域地域振興	前津江地区地域審議会 委員
佐藤 学	農林業振興 地域振興	前津江	森林 地域振興	JA大分わさび部会 副部長、椿ヶ鼻ハイランドパーク 理事、林業家・ワサビ生産者
木下 周	観光振興	日田	観光	(社)日田市観光協会 事務局次長
手島 勝馬	漁業振興	日田	漁業	日田漁業協同組合 専務理事
神川 建彦	NPO、林業振興	日田	森林再生	NPO初島森林植物園ネットワーク 理事長
諫本 憲司	NPO 上下流交流	日田	水環境	水郷ひた再生委員会 事務局長 NPOひた水環境ネットワークセンター 前理事長
財津 俊彦	地域振興	日田	まちづくり	日田青年会議所 元理事長
園田 匠	地域振興	日田	まちづくり	NPOひた水環境ネットワークセンター 理事長 ストリームひた 直前代表
高倉 貴子	地域振興	日田	まちづくり	たかま.net 代表
<b>■役職の策定委員会委員（必要に応じて出席）</b>				
原田 啓介			日田市	日田市長(第14回までは佐藤陽一)
小川 裕三			大分県	大分県西部振興局長 (第1回は木村浩介主事が参加) (第2回から11回は師藤久幸主査が参加) (第12回以降は河崎安範主査が参加)
相場 公博			福岡県	福岡県県土整備部水資源対策課長 (第12回までは吉村静男)
西澤 義彦			福岡地区水道企業団	施設部長(第1回は平尾隆道)
木下 秀夫			福岡県南広域水道企業団	総務部長
諫山 立生			国土交通省	国土交通省筑後川ダム統合管理事務所長 (第1回は大塚強史)
池田 茂			水資源機構	独立行政法人水資源機構筑後川局長 (第1回は恒吉徹)
新屋敷 隆			水資源機構	独立行政法人水資源機構大山ダム建設所長
<b>■行政窓口</b>				
河津 武夫			日田市大山振興局	大山振興局長(第1回は朝井幸一郎)
三苫 誠			日田市前津江振興局	前津江振興局長 (第11回までは、長谷部仁治)
<b>■事務局</b>				
			日田市	日田市民環境部水郷ひたづくり推進課長
			日田市	日田市地域振興部大山ダム対策室長
			水資源機構	独立行政法人水資源機構大山ダム建設所環境課長

(2) 策定の手順

水源地域ビジョン策定の手順は、表 1-3 のとおり作業部会において、ビジョンの案について検討を行い、その案を基に策定委員会で協議して策定する。

大山ダム水源地域ビジョンは、15 回の作業部会と 4 回の策定委員会を経て策定された。

表 1-3 策定手順表

検討時期	委員会	作業部会
平成 22 年 2 月	第 1 回 策定の趣旨について	
2 月		第 1 回 進め方の検討
5 月		第 2 回 水源地域の検討
6 月		第 3 回 流域の検討
6 月		第 4 回 現状把握
7 月		第 5 回 ビジョンの頭出し
9 月	第 2 回 作業部会第 1～5 回の確認	
10 月		第 6 回 水源地域の再検討
11 月		第 7 回 ビジョンの頭出し
12 月		第 8 回 資源の洗い出し、活かし方の検討
平成 23 年 1 月		第 9 回 実現に向けた検討
2 月	第 3 回 作業部会第 6～9 回の確認	第 10 回 (策定委員会と合同開催)
2 月		第 11 回 実現に向けた検討
5 月		第 12 回 実現に向けた検討
6 月		第 13 回 実現に向けた検討
7 月		第 14 回 ビジョン案の検討
10 月	第 4 回 ビジョンの策定	第 15 回 (策定委員会と合同開催)

## Ⅱ. 水源地域の現状

### 1. 大山ダムの計画

大山ダムは、一級河川筑後川上流の大分県日田市に建設中の多目的ダムである。

筑後川は、熊本、大分、福岡、佐賀の4県にまたがる九州一の流域を持つ河川で「筑後次郎」の愛称で呼び親しまれ、古くからかんがい、舟運、発電などにより地域経済に寄与してきた。反面、一度豪雨に見舞われると、その様相を一変して暴れ川となり、数々の水害をもたらしてきた。特に、昭和28年6月の大洪水では、直轄区間で破堤、決壊・崩壊、護岸決壊が起こり被災者約54万人、死亡者147名の大災害となった。一方、降雨量が少ないと河川流量が減少し、これまでに何度も渇水に見舞われてきた。特に、昭和53年、平成6年における福岡市での給水制限はそれぞれ287日、295日におよんだ。

このような背景の中、治水・利水にわたる筑後川の総合開発を促進することになり、その一環として筑後川水系赤石川において大山ダムの建設が進められている。

#### ●大山ダムの諸元

- ・目的：洪水調節、不特定、上水道
- ・型式：重力式コンクリートダム
- ・堤高：94m
- ・堤頂長：370m
- ・集水面積：33.6km<sup>2</sup>
- ・湛水面積：0.6km<sup>2</sup>
- ・総貯水容量：約19,600,000m<sup>3</sup>
- ・有効貯水容量：約18,000,000m<sup>3</sup>
- ・洪水時最高水位：EL. 259.0m
- ・平常時最高貯水位：EL. 245.0m
- ・最低水位：EL. 206.2m

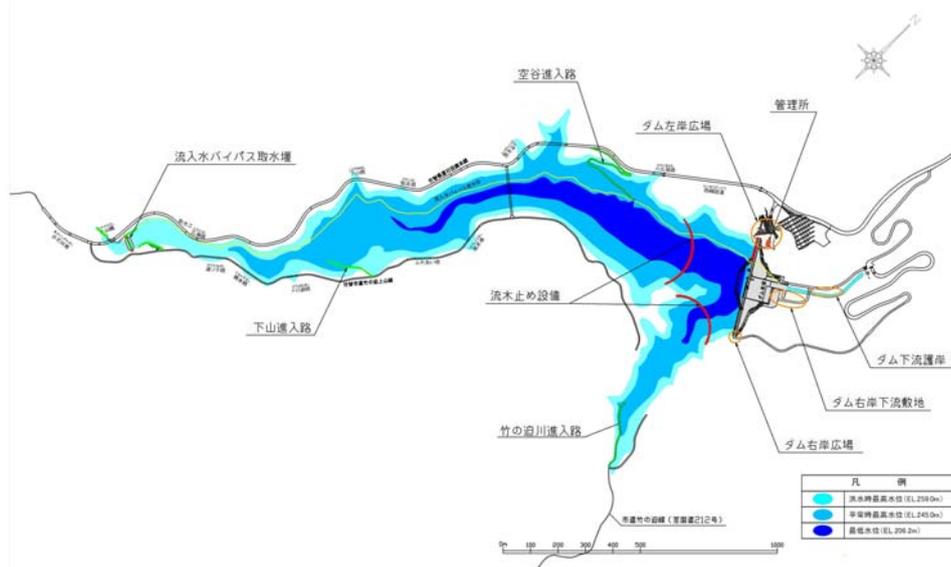
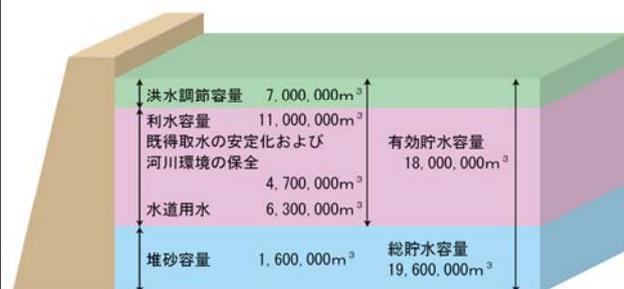


図2-1 大山ダム諸元及び貯水池周辺計画図

出典：大山ダム建設所資料

## 2. 大山ダム関連の計画

大山ダムにおける水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画（平成 11 年 3 月）の事業は、表 2-1 のとおりである。

表 2-1 水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画事業内容

No.	事業名	事業概要	事業主体	施行区域
①	土地改良事業	大山町大字西大山において、農業用排水施設整備、農道整備、ほ場整備等を行う。	大分県	大山町
②	治水事業	大山町大字西大山において、急傾斜地崩壊対策施設の整備および河川の改良を行う。	大分県	大山町
③	道路の整備に関する事業	県道日田鹿本線約 4.4km および橋梁 7 箇所並びに町道吾々路串作線ほか 5 路線合わせて 5.1km および橋梁 2 箇所の整備を行う。	大分県 大山町	大山町、 前津江村
④	簡易水道の整備に関する事業	大山町大字西大山および前津江村大字大野において、簡易水道の整備を行う。	大山町 前津江村	大山町、 前津江村
⑤	下水道の整備に関する事業	大山町大字西大山において、特定環境保全公共下水道の整備を行う。	大山町	大山町
⑥	林道の整備に関する事業	林道の小羽瀬烏宿線約 1.4km の林道の整備を行う。	大山町	大山町
⑦	農業（畜産業を含む）、林業又は漁業の経営の近代化のための共同利用施設の整備に関する事業	大山町大字西大山において、農畜産物処理加工施設、産地形成促進施設、農林水産物直売・食材供給施設等の整備を行う。	大山町 日田郡 森林組合 前津江村	大山町、 前津江村
⑧	公民館その他の集会施設又は民俗文化財若しくは有形文化財（考古資料その他学術上価値の高い歴史資料に限る）の保存および活用のための施設の整備に関する事業	大山町大字西大山において、集会施設の整備を行う。	大山町	大山町
⑨	スポーツ又はレクリエーションの用に供する施設の整備に関する事業	大山町大字西大山において、散策道、スポーツ公園および公園施設の整備を行う。	大山町	大山町
⑩	消防施設の整備に関する事業	大山町大字西大山において、防火水槽の整備を行う。	大山町	大山町
⑪	し尿処理施設の整備に関する事業	大山町大字西大山において、合併処理浄化槽の整備を行う。	大山町	大山町

出典：筑後川水系赤石川大山ダムに係る水源地域整備計画（平成 11 年 3 月）大分県



図 2- 2 大山ダム水源地域整備計画の事業図（主な施設）

### 3. 大山ダム周辺の資源

大山ダム周辺は、表 2-2、図 2-3 のとおり、多くの資源があり、様々な活用方法が考えられる。

しかし、ひとつひとつの資源単独では不十分な面があることから、複数の資源を活用し、様々な活動を連携しながら展開していくことで、より効果が発揮されると考えられる。

表 2-2 大山ダム周辺の資源一覧表

種類	資 源
樹木 樹林等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（巨木）吾々路地区のイチヨウ</li> <li>・（巨木）もみじ谷のケヤキ、モミジ</li> <li>・（巨木）カヤ、モミジ（田来原ともみじ谷の間の谷筋）</li> <li>・（巨木）加峯地区 日隈秀夫氏の敷地内にあるイチヨウの木</li> <li>・（巨木）吾々路地区 神社のそばのクスノキ</li> <li>・（巨木）田代地区 カツラの大木</li> <li>・権現岳（御前岳）北斜面のシオジの原生林</li> <li>・権現岳（御前岳）北斜面のシオジの原生林そば 夫婦杉</li> <li>・市有林（杉林）200ha</li> </ul>
景観等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹の迫 竹の迫の奥の高台 見晴らし良好。360度の展望。星がよく見える</li> <li>・釈迦岳の新緑・紅葉</li> <li>・原石山周辺の眺望</li> </ul>
各種施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまめの郷</li> <li>・シャクナゲ園（大野、田来原）</li> <li>・高瀬川沿い 柚木地区 ひろしげ（ヤマメ料理）</li> <li>・高瀬川沿い 出野地区 フィッシングいずの</li> <li>・田来原（前津江）周辺 柚子の観光農園（約2ha）個人が経営</li> <li>・大野老松天神社</li> <li>・椿ヶ鼻ハイランドパーク</li> <li>・眼鏡橋</li> </ul>
レクリエーション等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田来原周辺</li> <li>・権現岳（御前岳）</li> <li>・田来原美しい森づくり公園から展望台まで歩ける</li> <li>・クヌギ林のカブトムシ、クワガタムシ</li> <li>・自然散策道（烏宿展望台周辺）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シイタケ栽培発祥の地（田来原）</li> <li>・百年の森づくり（故筑紫哲也氏など）</li> <li>・田来原の上の方に12名共有の堤がある</li> <li>・権現岳（御前岳）北斜面のシオジの原生林近くの湧水</li> <li>・フシノハアワブキ、エドヒガンザクラ</li> <li>・ホテル</li> <li>・はだか参り</li> <li>・ダム下流の広場</li> <li>・源流</li> <li>・たくさんのダムに水を送る前津江</li> </ul>

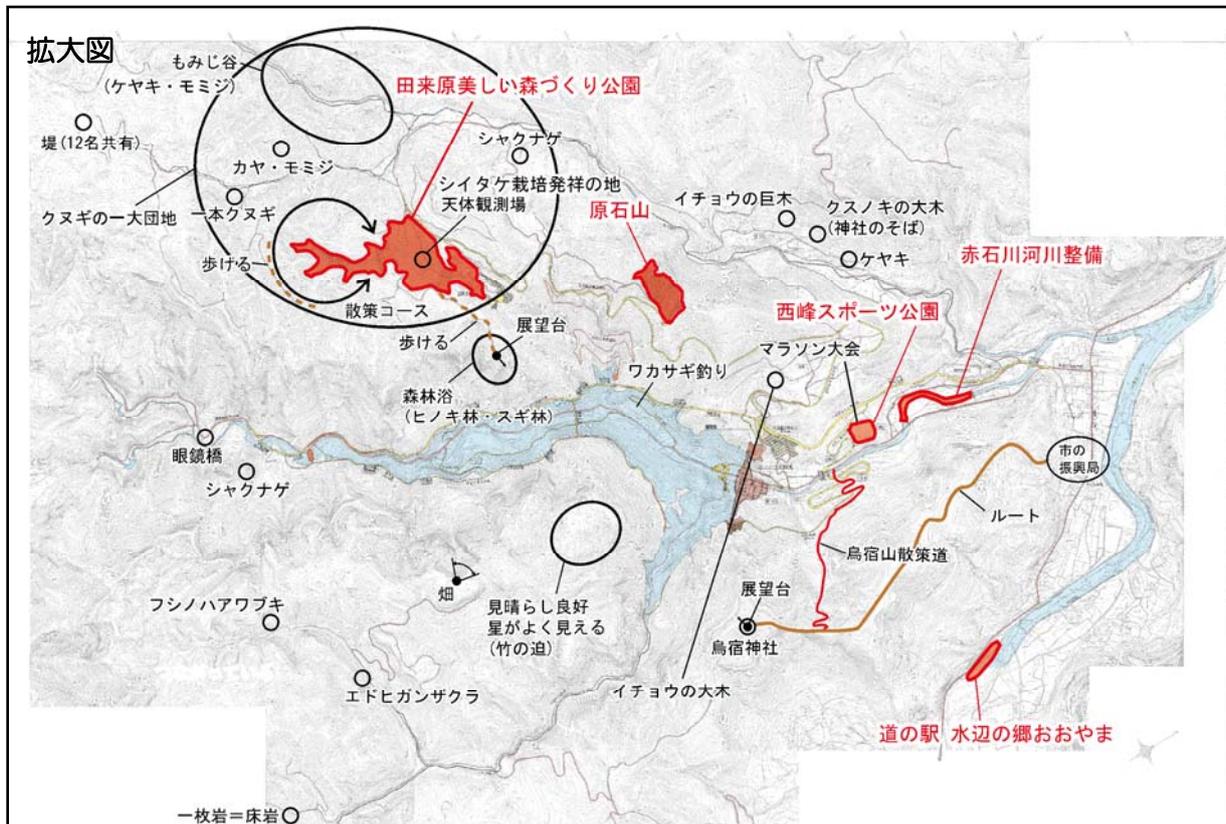
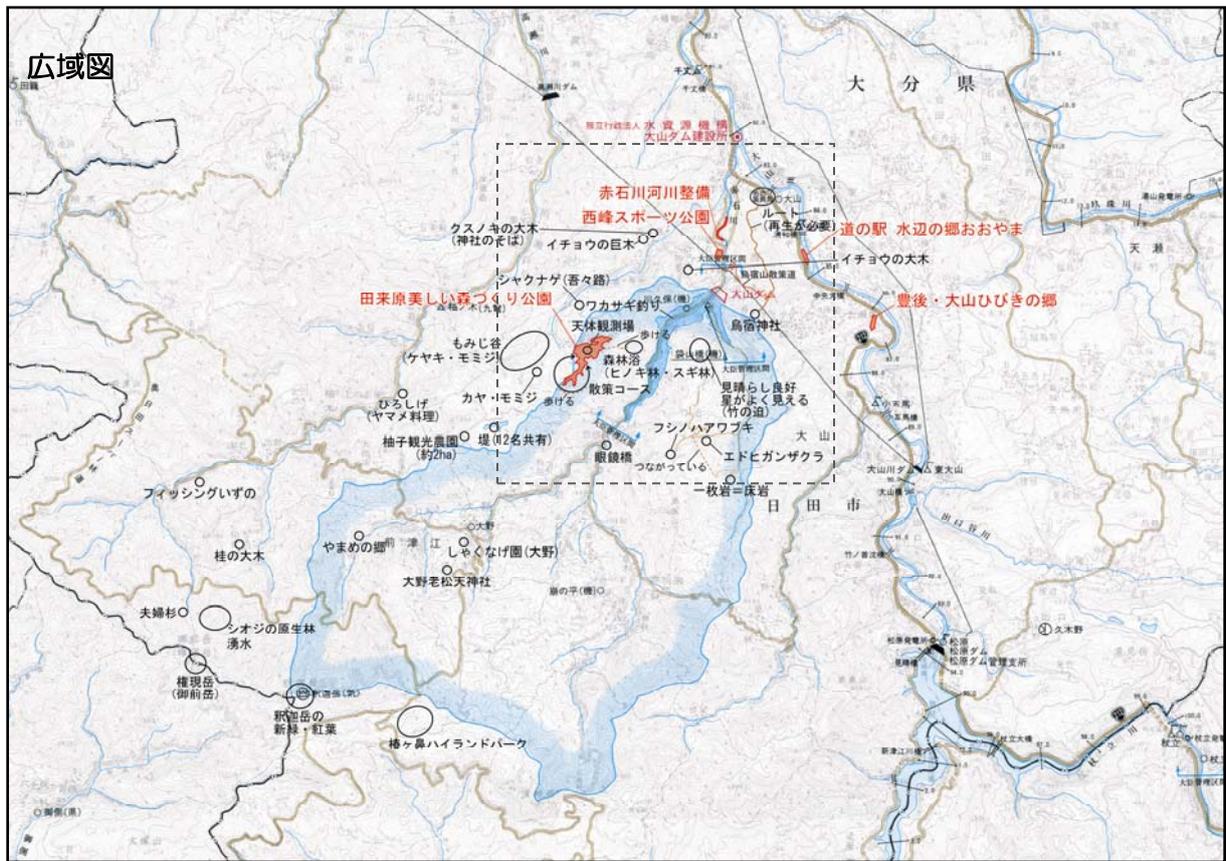


図 2-3 大山ダム周辺の資源図

## 4. まちづくり活動の状況

### (1) 田来原 100 年の森づくり

旧大山町では、自然環境に適応した経済や生活のあり方を考え直し、人々が健全で持続可能な社会への転換として、自然循環型の地域づくりが求められていることを鑑み、これまでの経済価値を優先した山づくりを見直し、健康な自然環境と健全な文化の発展（自然と人間の共生）を目指した森林づくりを実施するため、平成 6 年度に、「田来原 100 年の森づくり計画」を策定した。

平成 6 年 11 月に「田来原 100 年の森づくり事業」として植樹祭を開催し、平成 14 年度まで続けられてきた。平成 15 年度からは、「ひと山まるごとガーデニング事業」が開始され、平成 16 年度までは植樹を、平成 17 年度より下刈り作業を実施するなど、森林本来の生命活動が活発となるような「土壌ができるための環境づくり」を現在も進めている。

### (2) 作業部会構成委員の取り組み

大山ダム水源地域ビジョン策定委員会・作業部会委員に対し、各活動エリア、活動ターゲット、活動内容の調査を行い、カード形式により活動内容の取りまとめ整理を行った。

ここでは、取りまとめたカードを基に、作業部会委員が行っている活動状況を整理する。

#### 1) 活動エリアと活動ターゲット

活動エリアについては、『より地元か、より都市圏か』という基準で分類すると、表 2-3 のとおり概ね『地元』、『地元と都市圏の両方』、『都市圏』の3つのグループに分類できる。また、活動エリアが『地元』と回答した委員においては、『日田市全域』と『日田市の一部』の2つに分類できる。

表 2-3 まちづくり活動エリアと活動ターゲットの重ね合わせ表

エリア ターゲット	地元中心		地元と都市圏の両方	都市圏中心
	日田市の一部	日田市全域		
地元中心	おおやま西峰自治会		初島森林植物園 ネットワーク	
地元中心 (都市圏も)	ストリームひた たかま.net	日田青年会議所	ひた水環境ネット ワークセンター 日田漁業協同組合	
都市圏中心 (地元も)	前津江における活動 老松生産森林組合		筑後川上流倶楽部	おおやま夢工房
都市圏中心		日田市観光協会		

## 2) 活動内容

作業部会の委員から集約した活動内容については、表 2-4 のとおりである。

表 2-4 作業部会メンバーの活動内容一覧表

活動者	活動エリア	活動ターゲット	活動内容
老松生産 森林組合	老松生産森林組合山 林内	日田市、福岡市水道局、 企業団の協力を得て森づく り、福岡市の住民	①森づくり、②春に花が咲くように、秋 に紅葉が見られるように
おおやま 西峰自治会	西峰自治会	西峰住民	赤石川再生
おおやま夢工房	福岡都市圏（福岡市 中心）、時間距離 90分	不特定多数の住民、大学・ 研究機関、経済界中心に	①農産物および加工品の供給、 ②観光（宿泊、食事、温泉、体験 etc）の PRおよび誘致、③マーケット開拓、 ④商品開発（田舎料理ケータリング）
筑後川上流 倶楽部	熊本県小国町から福 岡県大川市筑後川全 川、福岡市	小学生から大人まで	①川遊び、②水質、生物調査、③森林自 然観察会、④子供環境サミット
前津江における 活動	所有する農地、 林地	農林業に興味のある人	①農林業、②杉の造林、③わさびの栽 培、④農林業の視察の受け入れ、農林業 についての説明
日田市観光協会	日田市全域	観光客全般	①旅行業、②情報発信、③食の提案
日田漁業 協同組合	三隈川、松原ダム、 福岡県・都会部、 日田市全域	カワウ対策、一般市民、釣 り人、全国の釣り人	①鮎つり大会の助成、②鮎、うなぎ等の 出店販売、③駆除、④放流
初島森林植物園 ネットワーク	日田市、大分県、九 州	①林家、山村住人、 ②児童、生徒、 ③下流域住民	①林家への人工林多様化のすすめ、②児 童、生徒向けに森林、自然教室（子供の 森づくり）、③植物園活動
日田青年会議所	日田市	日田市民	①まちづくり、②青少年育成、③観光祭 での活動、リバーフェスタ、④献血、 ⑤韓国との国際交流
ひた水環境 ネットワーク センター	日田市内を中心、 活動によっては 九州全域	市民、行政、企業、 団体、学校など	①個人が活動していること、行政が考え ていること等、双方向のネットワークづ くり、および、よき活動の活性化（黒子 的に支援）、②子供たちに泳げる川を合 言葉に「川づくり」「まちづくり」など
ストリームひた	日田市、三隈川	日田市民、リバーフェスタ は小学生メイン	①水上ステージを活用し、川開き観光等 川のイベント企画・運営、②リバーフェ スタ in みくま川の実行委員として企画 運営
たかま.net	日田・隈町エリア	日田市民、観光客など	①ひな祭り、②水面の盆、③まちづくり 拠点作り B-café の運営、④他の団体、九 州大学、Beppu-Project などの交流

## Ⅲ. 水源地域の目指す姿

---

### 1. 水源地域の目指す姿（キャッチフレーズ）

大山ダム水源地域ビジョンの今後に向けた水源地域の目指す姿は・・・

**自然水源としての森、  
人工水源としてのダムとともに  
共生していく地域**  
～ 100年後の世代のために、  
安定した水源・自然に戻していく森づくり ～

大山ダムの周辺は、古来から自然の水源として良好な森や多くの自然資源を有し、我々はその豊かな資源を享受するとともに、親から子・孫への森づくりを行い、その流れは現在までも脈々と受け継がれている。

この水源を有する日田市は、筑後川流域 2,860km<sup>2</sup>のなかで 1/4 の面積を占める 666km<sup>2</sup> の市域を持ち、筑後川流域全体にとっても極めて重要な地域である。

一方、新たに人の手で造られる人工の水源としての大山ダムは、当該地域の新しい資源として、地域住民をはじめ流域や給水区域の住民に対して、安定した水源と安全な生活を供与する。

このように自然水源と人工水源が共生する当該地域を、豊かで良好な水源地域として次世代にまで受け継いでいくことが我々の責務である。そのためには、水源地域が健全な森林の姿に戻るように、将来を見据え、これまで日田市民が取り組んできた 100 年の森づくりをさらに推進することが必要である。

## 2. 地域づくりの基本方針

### (1) 地域づくりの基本方針

大山ダム水源地域活性化へ向けての基本的なあり方として、水源地域の有する特性や課題を踏まえ、水源地域の目指す姿を実現するため、地域の「産業振興」や「環境保全」・「余暇活動」の推進の3つを、地域づくりの基本方針として設定する。

「100年の森づくり」は、水源地域の森の存在、水の価値、水を考え、語り、理解を深めるものとして、大山ダム水源地域活性化の基軸となるものであるとともに、3つの地域づくりの基本方針を有機的に連携することで、これまでの日田市における活動を後押しし、これからの地域活性化に寄与するものであると考える。

### ● 地域づくりの基本方針

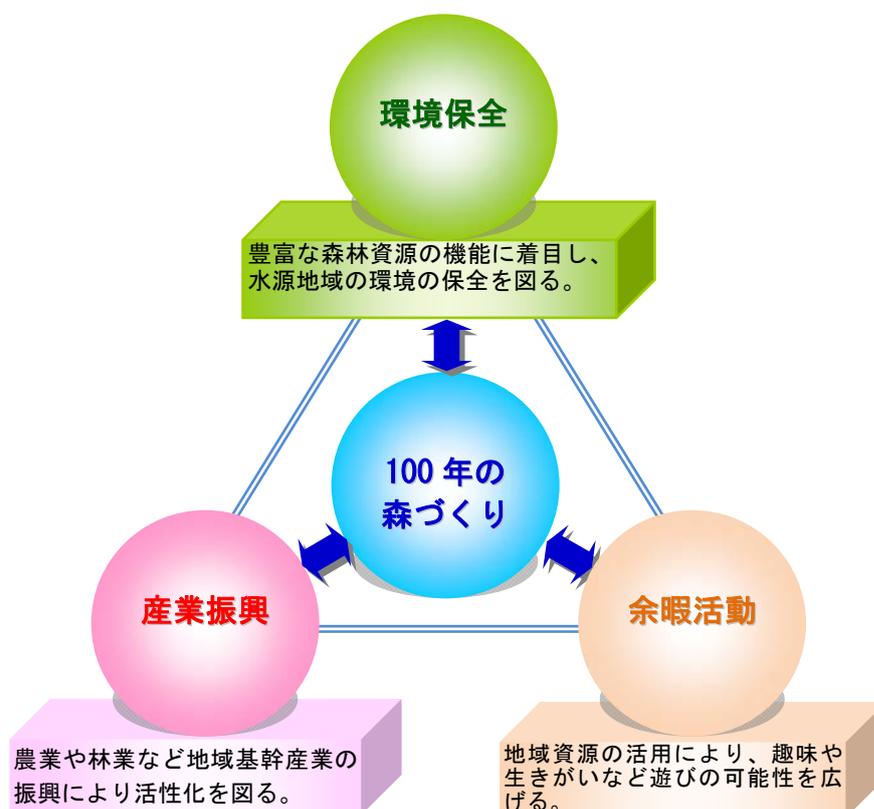
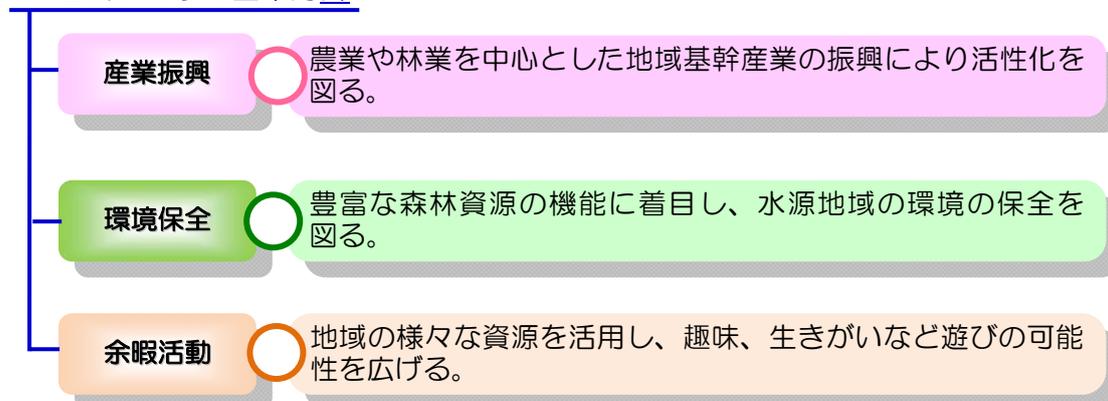


図3-1 地域づくりの基本方針

## (2) 地域づくりの実施に向けた取り組み

地域づくりの基本方針を展開するにあたり、図 3-2 に示す3つの取り組みを設定する。また、活動を持続するためには、活動費を安定的に確保する仕組みづくりが必要である。

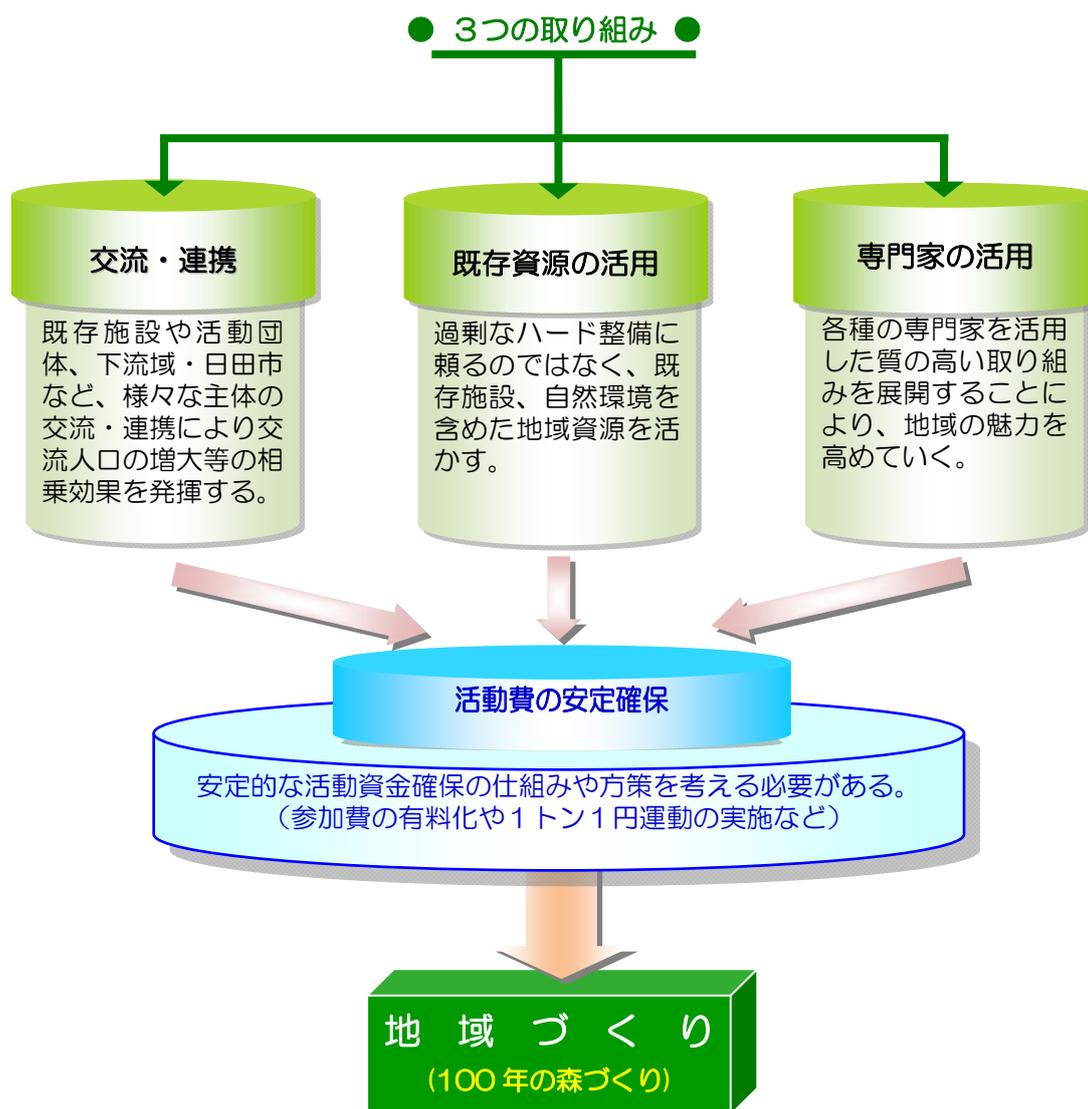


図3-2 地域づくりの3つの取り組みと活動費確保の仕組み

## IV. 水源地域の目指す姿の実現に向けて

### 1. 施策展開

大山ダムの周辺地域では、設定した3つの基本方針、3つの取り組み、活動を持続するための仕組みづくりに基づき、図 4-1 のとおり施策を展開することで、水源地域の活性化を図る。

具体的な施策の例を表 4-1 に示す。

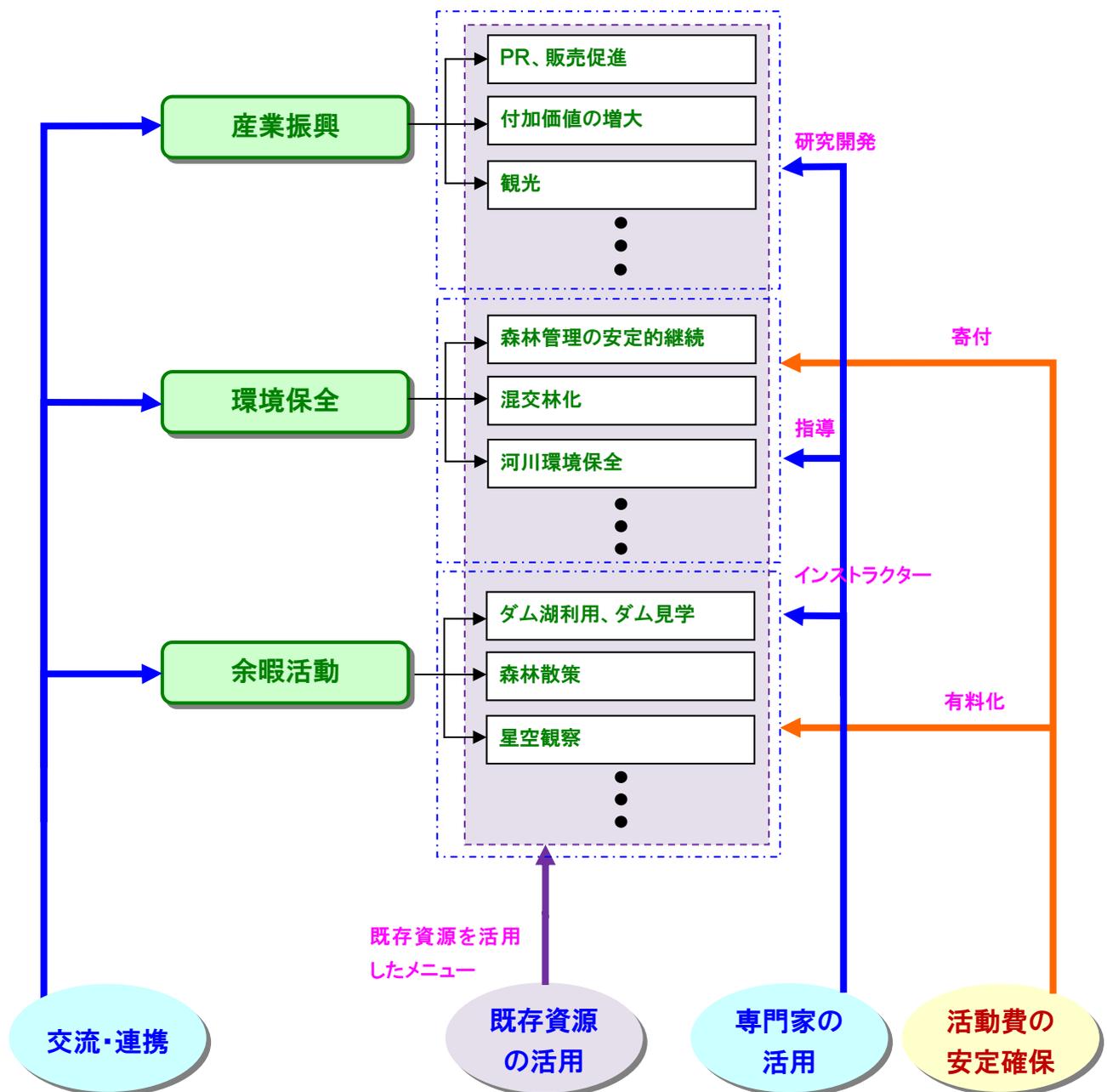


図 4-1 施策展開の体系図

表 4- 1 大山ダム水源地域の活性化具体施策例(案)

資源を活かして何をするか	どう演出するか	その他
<p>森の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の人が自信を持って宝を説明できるようにする。</li> <li>・ 森林セラピーの森、野草の森、生産・学び・遊びの森、キノコの森</li> <li>・ 林道などを使ったトレイルマラソン</li> <li>・ 散策、ウォーキングラリー（その季節にとれる山菜を紹介する）</li> <li>・ 自然観察 ・ 沢登り</li> <li>・ 森林を活かしたハイキング</li> <li>・ 林間学校 ・ 社会見学</li> <li>・ 学び（ダム）と遊び（山菜とり）の空間とする。</li> </ul>	<p>森づくりのストーリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森のシーソー、ツリークライミング、マウンテンカート、馬車</li> <li>・ 湖面に映える全山林を強伐し、美しい森にする。</li> <li>・ 前津江へ抜けるルートの整備を行う。</li> <li>・ 周遊ルートづくり（ルートに合わせた拠点整備づくり）</li> <li>・ 30分～1時間程度歩いて少し休んで、お弁当を広げられるくらいの広場を整備する。</li> <li>・ ビューポイントとしてセットで周辺に点在する。”</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人達の実感・誇り・自信をもつ（地元の人たちが自信を持って宝を説明できるようにする）（地域内の人、地域外の人向けに自慢できるツアーを企画する。）</li> <li>・ 長く続くことが大切である。</li> <li>・ 都市型の公園はやめた方が良い。</li> </ul>
<p>山菜・キノコの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きのこと公園（森産業がかつて計画）</li> <li>・ 遊び（山菜とり）</li> <li>・ きのこと狩り（きのこ鍋）</li> <li>・ 山菜採り（山菜たぶら）</li> <li>・ イノシシ狩り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シイタケ学校（全国からシイタケ栽培したい人を募集する）</li> <li>・ 遊び（山菜とり）の空間とする。</li> </ul>	
<p>工芸の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生作製の彫刻をおき、毎年増やす。（親が見に来る）</li> <li>・ 工房（木を切ってカヌーを作る）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガードレールに杉とかでカバーする。</li> </ul>
<p>景観の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天体観測</li> <li>・ 「田来原からダムが見える」という状況をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天体観測＋インストラクター</li> <li>・ ダムが見えるポイントの紹介・整備を行う。（竹の迫奥の高台、田来原の展望台、椿ヶ鼻、県道、市道等）</li> </ul>	
<p>ダム周辺の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学び（ダム見学）</li> <li>・ ダムの社会見学（水陸両用車で）</li> <li>・ ダム学習</li> <li>・ ダム湖の遊覧船</li> <li>・ 湖面を間接照明にした紅葉のイルミネーション</li> <li>・ ウォータースクリーンで映画</li> <li>・ ダムを使ったロッククライミング（公認コース）</li> <li>・ 地質調査のトンネルを散策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学び（ダム）の空間とする。</li> <li>・ きちんとダムを見せる。</li> <li>・ 福岡の小学生をダム見学に来てもらう。</li> <li>・ 2つの滝を持つダムであることのPRする。</li> <li>・ ダム内のトンネルに連れて行く</li> <li>・ ダムから流れる水を、人々に滝・涼を取る場として捉える。</li> <li>・ お土産付きの有料ダム見学（しいたけ、山菜、入浴、梅・）</li> <li>・ ダム壁面緑化（例えば夏蔦（なつづた）</li> <li>・ 紅葉をダムの湖面から見る</li> <li>・ クライミングなど色々なインストラクターをいれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松原ダム、下笠ダム、大山ダムへ水を送る前津江</li> <li>・ ダム周辺道路のちょっとした駐車スペースの設置</li> <li>・ ダム湖周辺にトイレがない</li> <li>・ ブラックバス問題</li> </ul>
<p>イベントの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域外の人が地域内の人に自慢するツアーを計画する。</li> <li>・ 地域を知って貰う各種イベントを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インストラクターが集う。（季節ごとにラインナップをする）</li> <li>・ マウンテンバイク（整備されすぎない方がいい）</li> <li>・ メンバーの出資で会社をつくる。</li> <li>・ ランドマークの整備を行う。</li> <li>・ 日田からヘリコプターで湖面遊覧を行う。</li> </ul>	

## 2. 既存資源の活用例

### (1) 資源とその活用方法・担い手

大山ダム水源地域で「既存資源」を活用し、地域の活性化を図っていくにあたり、資源とその活用方法及び、活用者（担い手）の例について、地域別、自然資源、施設資源別に整理した。（表 4-2、図 4-2）

表 4-2 大山ダム水源地域の資源とその活用方法・担い手（例）一覧表(1)

#### ■ ダム上流

担い手	自然資源	施設資源
地元住民 山林所有者、所有者 地元自治会 老松森林組合 日田郡森林組合 経営者 前津江町民・有志 氏子・管理者	・わさび栽培(清流・湧水)  ・巨木・紅葉観光 (桂・夫婦杉・シオジ 原生林・釈迦岳)	・観光農園 (柚子観光園、 しゃくなげ園、 シイタケ栽培 発祥の地、 樫ヶ鼻ハイラ ンドパーク、 大野老松神社)
樫ヶ鼻ハイランドパーク 日田漁業協同組合 ストリームひた ひた水環境ネットワーク しいたけ生産者 たかまnet 初島森林植物園ネットワーク		
日田市観光協会 日田市 青年会議所 農業団体	日田市	
ボランティア インストラクター	広域	

#### ■ 田来原

担い手	施設資源
地元住民 山林所有者、所有者 地元自治会 老松森林組合 経営者 前津江町民・有志 氏子・管理者	・きのこ園
樫ヶ鼻ハイランドパーク 日田漁業協同組合 ストリームひた ひた水環境ネットワーク しいたけ生産者 たかまnet 初島森林植物園ネットワーク	
日田市観光協会 日田市 青年会議所 農業団体	日田市
ボランティア インストラクター	広域

表 4-2 大山ダム水源地域の資源とその活用方法・担い手（例）一覧表(2)

■ ダム貯水池周辺

担い手	自然資源	施設資源
<p>地元住民、農家 山林所有者、所有者 地元自治会 おおやま烏宿自治会 老松森林組合 日田郡森林組合 経営者 前津江町民・有志 氏子・管理者 大山水環境アスリート</p>	<p>〔・わさび栽培(源流)〕</p>	<p>〔・石橋見学(眼鏡橋)〕</p>
<p>榑ヶ鼻ハイランドパーク 日田漁業協同組合 ストリームひた ひた水環境ネットワーク しいたけ生産者 たかまnet 初島森林植物園ネットワーク 筑後川上流倶楽部</p>	<p>〔・森林浴(森林、杉・檜林、市有林)〕 〔・烏宿山自然散策・展望台(尾根筋自然散策)〕 〔・銀杏のライトアップと演奏(銀杏、)〕</p>	<p>〔・巨木・紅葉観光(紅葉谷、カヤモミジ、一本クヌギ、シャクナゲ、エドヒガンザクラ、フジノハアワブキ)〕</p>
<p>日田市観光協会 日田市 青年会議所 農業団体</p>	<p>〔・沢登り〕 〔・眺望めぐり(竹の迫、竹の迫奥高台)〕</p>	
<p>ボランティアインストラクター</p>		

■ ダム湖・堤体

担い手	自然資源	施設資源
<p>地元住民 山林所有者、所有者 地元自治会 老松森林組合 経営者、愛好家 前津江町民・有志 氏子・管理者 大山水環境アスリート</p>		<p>〔・地質調査トシ活用〕</p>
<p>榑ヶ鼻ハイランドパーク 日田漁業協同組合 ストリームひた ひた水環境ネットワーク しいたけ生産者 たかまnet 初島森林植物園ネットワーク おおやま夢工房</p>	<p>〔・ワカサギ釣り〕</p>	<p>〔・ランドマークの建設〕</p>
<p>日田市観光協会 日田市 青年会議所 農業団体 大分県日田土木事務所 大山ダム建設所(水資源機構)</p>	<p>〔・花火〕</p>	<p>〔・ダム湖間接照明演出〕 〔・ダム湖遊覧船〕 〔・水陸両用車ダム湖見学〕 〔・ウォータースクリーンの映画上映〕</p>
<p>ボランティアインストラクター</p>	<p>〔・沢登り・工房(かヌづくり)〕</p>	<p>〔・ダム壁面緑化〕 〔・ダムロックライミグ〕</p>

表 4-2 大山ダム水源地域の資源とその活用方法・担い手（例）一覧表（3）

■ 大山ダム水源地域整備計画による事業

担い手	自然資源	施設資源
地元住民 山林所有者、所有者 地元自治会 老松森林組合 日田郡森林組合 経営者、愛好家 前津江町民・有志 氏子・管理者	地元	
椿ヶ鼻ハイランドパーク 日田漁業協同組合 ストリームひた ひた水環境ネットワーク しいたけ生産者 たかま net 初島森林植物園ネットワーク おおやま夢工房	近郊 ・ホテル 観賞会 ・コンサート	・季節の植物 ・山菜採り ・散策ウォーキング ラリー (烏宿山散策道)
日田市観光協会 日田市 青年会議所 農業団体 大分県日田土木事務所 大山ダム建設所(水資源機構)	日田市 ・赤石川 河川整備	・観光、温泉、 蛍祭り ・フォトフェス ・音楽祭、コンサ ート ・スポーツ大会 (道の駅、豊後大 山ひびきの郷、)
ボランティア インストラクター	広域	

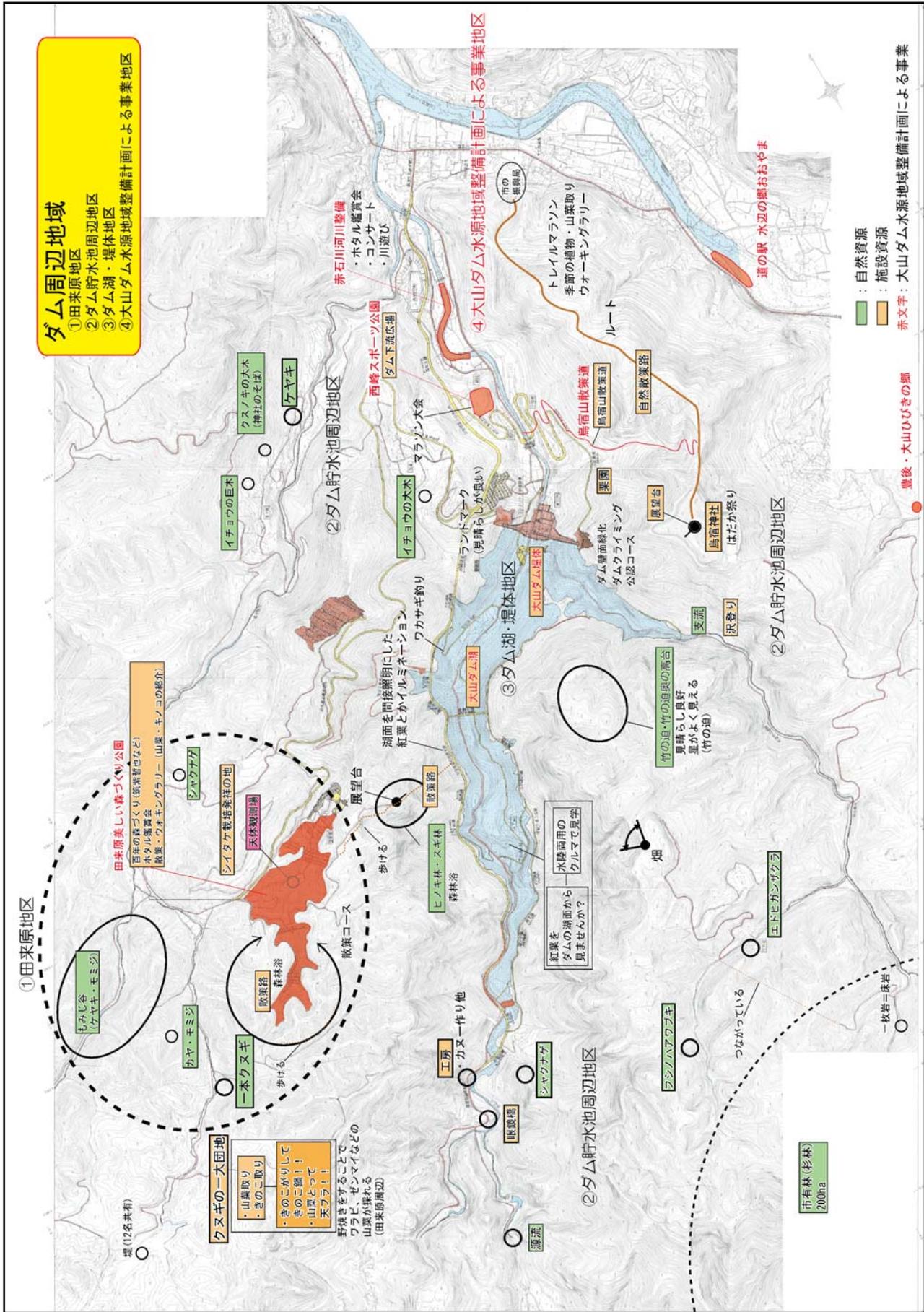


図 4-2 大山大ダム水源地域の資源の活用例

(2) 特筆すべきポイント

大山ダム水源地域の既存資源の中で自立性・持続性があり、特に注目できるもの、特異性があり「売り」にできるものを抽出し、それらを活用することのできる活用者と活用方法について、表 4-3 にとりまとめた。

表 4-3 大山ダム水源地域の特筆すべきポイント一覧表(1)

■ 注目できるもの、特異性があり「売り」にできるもの	■ 活用者と活用方法(例)
<p><b>B</b>：水源地域の山河の国土～景観</p>	
<p><b>B</b>：ダムと豊かな自然景観の調和</p> <p><b>F</b>：ダム湖の水面に映える壮観な風景</p>	<p>○一般の観光客がダム湖を眺望しながら、ドライブを楽しめる道路と駐車場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖を一周できる道路の整備</li> <li>道路からダム湖を眺望できるよう道路沿いの木々の伐採</li> <li>・ビューポイントとなる道路沿いの駐車場・高台の整備</li> </ul> <p>○一般の観光客が森林浴を楽しめる散策路等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高台へのアクセス、高台からダム湖周辺、近隣森林への散策路(田来原公園の散策路含む)の整備</li> </ul>
<p><b>B</b>：ダム湖と自然景観が織りなす地域資源</p>	<p>ダム湖を起点とし、周辺の散策により自然体験ができる。</p>
<p><b>A</b>：赤石川の澄んだ水、流入水バイパス</p> <p><b>D</b>：大山特有の農業・農産物、</p> <p><b>A</b>：豊かな自然</p>	<p>活用者：地元</p>
<p><b>A</b>：高台からのダム湖の眺望</p>	<p>ダム湖を眺望できる駐車場(山腹)の整備</p>
<p><b>A</b>：自然・星空・山・川・水</p> <p><b>B</b>：景観</p> <p><b>C</b>：杉の森・百年の森づくり</p> <p><b>D</b>：梅・きのこ・木の花ガルテン・ヒト</p> <p><b>F</b>：田舎</p>	<p>いちいち細かいマップをつくる(普通の観光マップではなく、大山ダムに行く途中の角の〇〇さんのおじさんは面白いとか、木の花ガルテンやひびきの郷での上手な買い物の仕方(実は売れ残りが新鮮なのに格安!)とか、細かい歴史までわかるとか。)</p> <p>湖面の定点観測写真をネットで毎日お知らせする。</p> <p>田来原公園をアルテピアッツァ美唄のような公園に。(何にもないけど、ものすごく気持ちいい公園です。)</p> <p>毎週または毎月、いつでもイベントがある。(ただし、大きなものではなく、ささやかなものでよい)→誰かがいるという雰囲気づくり</p>
<p><b>A</b>：緑の美しさ、野鳥のさえずり</p> <p><b>B</b>：ダム沿いの景観</p> <p><b>C</b>：周辺の山づくり、</p>	<p>今までは殺風景</p> <p>ダム沿い市道・県道沿いの法面等の整備、植樹、伐採、間伐等で杉の森の整備、美しい山づくり。</p> <p>道路沿いには紅葉や桜、カエデなどの落葉樹道をつくる。</p> <p>美しい森づくりは田来原だけに限らず、ダム周辺全体にやってこそダムの景観もよくなる。</p> <p>野鳥の宝庫ともいえるような森づくりはできないか</p>

図 4-3 のグループ分けに対応し以下のとおり着色した。

**A**:自然、**B**:景観、**C**:森づくり、**D**:産業、**E**:人工物、**F**:森づくり+景観

表 4-3 大山ダム水源地域の特筆すべきポイント一覧表(2)

■ 注目できるもの、特異性があり「売り」にできるもの	■ 活用者と活用方法(例)
<p><b>E</b>: ダム湖</p>	<p>1. ヨット・カヌー等のマリンスポーツ 旧町村(大山町, 中津江村, 天瀬町)にはヨット・カヌー等のマリンスポーツを通じ, 青少年の健全育成を目的とした海洋クラブが結成され, 行政(教委)の支援の下活動していたが, 市町村合併により休止状態である。新市において海洋クラブを再結成し, ダム湖を活動の拠点とする。</p> <p>2. 外来魚や他水域の魚が生息していない釣り場 漁協や行政, 地域住民が一体となって外来魚や他水域の魚が生息していないダム湖として保全していく。</p>
<p><b>E</b>: 竹の迫の散歩道の設置 <b>D</b>: 田来原公園を設置し, きのこの栽培に徐々に取り組み, 5年を目途に集積できるようにする。</p>	<p>活用者は都市部の子供達, 親 椿ヶ鼻, ひびきの郷等との連携により, 屋外学習への取り組み</p>
<p><b>A</b>: 北部九州の Teppen (屋根) <b>A</b>: 大山ダム付近の深い自然 <b>B</b>: 釈迦岳からの眺望</p>	<p>観光協会や地元の有識等で, 半日, 日帰りや, 一泊の観光ルート作りを行ない, 内外に PR.</p>
<p><b>D</b>: 田来原は, しいたけ栽培発祥の地として多くのなば師を全国に生み出した地域 <b>F</b>: 平成5年にCWニコル氏, 倉本聡氏をはじめ, 多くの知名人と筑後川流域の人々と共に取り組んだ 100 年の森づくりにおいて 18 年間の共感の地</p>	<p>①しいたけ栽培発祥の地としてきのこが自然に自生する自然豊かな森作りを行うことで, きのこの研究, 収穫体験, 戦陣たちが行った森との関わりなどの研修を行う。 ②18 年間流域住民と大山ダム建設を通じて, 水源の森作りに共感頂いた人々と, 水源涵養機能を最大限に活かした森作りにより, 流域の子供たちから大人まで研修体験ができる。</p>
<p><b>C</b>: 広葉樹林 <b>D</b>: キノコ</p>	<p>大山りんかーん学校 活用者: 田来原生産森林組合 森産業株式会社 NPO法人 等 活用方法: キノコ研究所と体験圃場 植栽や下刈り etc 広葉樹や葉を利用したネーチャードラム等の導入</p>
<p><b>B</b>: 四季を通しての景観と資源 <b>D</b>: おもてなし(心)。</p>	<p>●ダム湖遊覧船での周遊(ツアー企画等)・・・ ボランティアガイド等・・・ ●福岡都市圏との連携 ・水源資源を利用している都市圏の小・中学校の社会見学, もしくは研修としての利用促進。(学校カリキュラムに必ず組み込んでもらうとか・・・) ・高校の研修でも可。(オリエンテーションでの活用等) ※福岡都市圏の方々に勉強していただきながら, 活性化を共有してもらう。</p>
<p><b>A</b>: 釈迦岳より流れ出る神聖な水 <b>A</b>: ダム周辺の実り豊かな自然 <b>D</b>: 駒うちしいたけ発祥の地</p>	<p>●利水者である福岡都市圏の人々に水源地域の良さを理解してもらい, 水源地域の人々, そのことを誇りに思い, 自然環境の保護に努める。</p>
<p><b>C</b>: 「100 年の森構想」を本格的に打ち出し, <b>F</b>: 日本一, 世界一の森を, 100 年単位で目指す事。</p>	<p>●全日田市民を巻き込んだ, 植樹活動や, 研修活動などを行う。</p>

図 4-3 のグループ分けに対応し以下のとおり着色した。

**A**: 自然、**B**: 景観、**C**: 森づくり、**D**: 産業、**E**: 人工物、**F**: 森づくり+景観

特筆すべきポイント（特に注目できるもの、特異性があり「売り」にできるもの）について、縦軸を「営利→非営利」、横軸を「自然→人工」として取りまとめた。

その結果、図 4-2 のように「人=担い手」を中心に「非営利」の「自然」・「森づくり」・「景観」に関する資源が多く、「営利」や「人工」に付随する「産業」・「人工物」の資源は比較的少ない傾向となった。

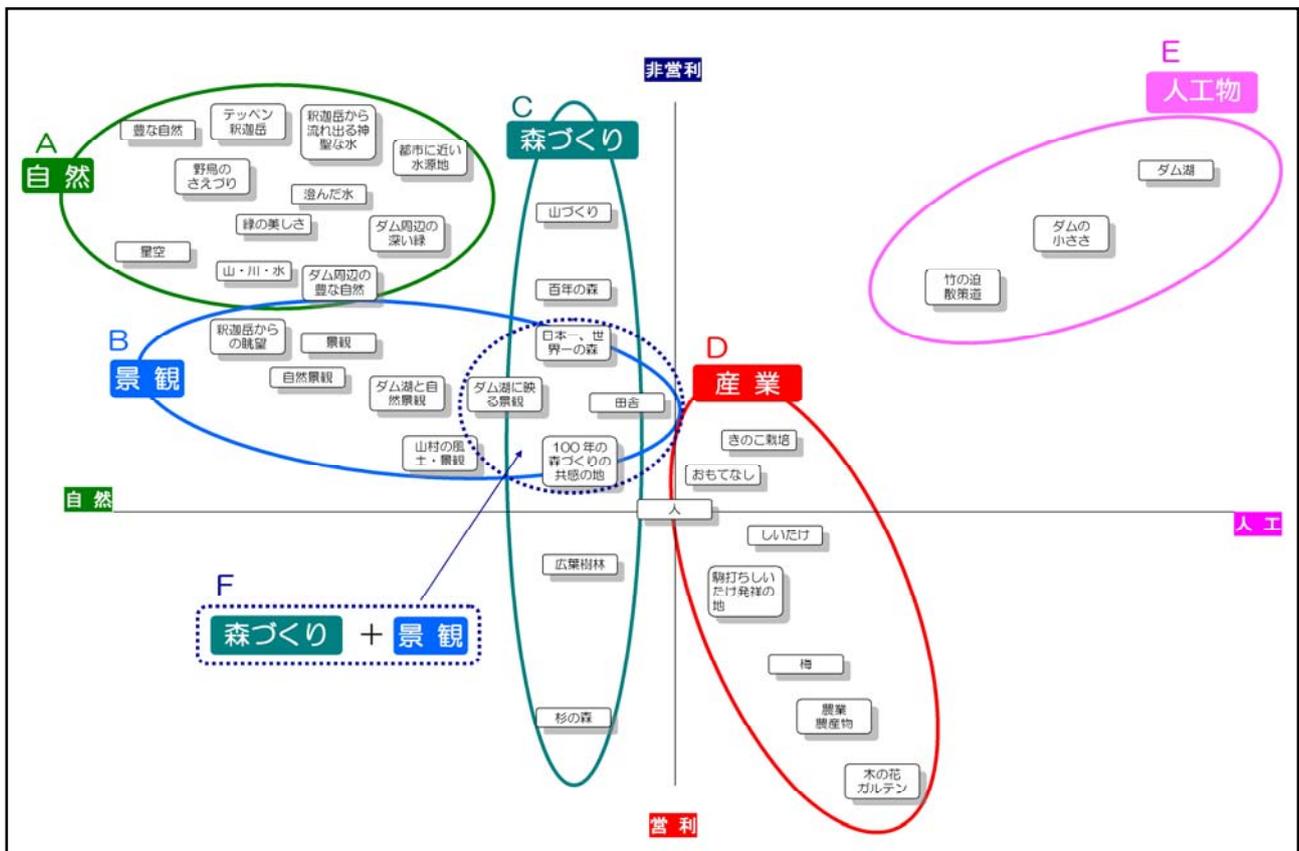


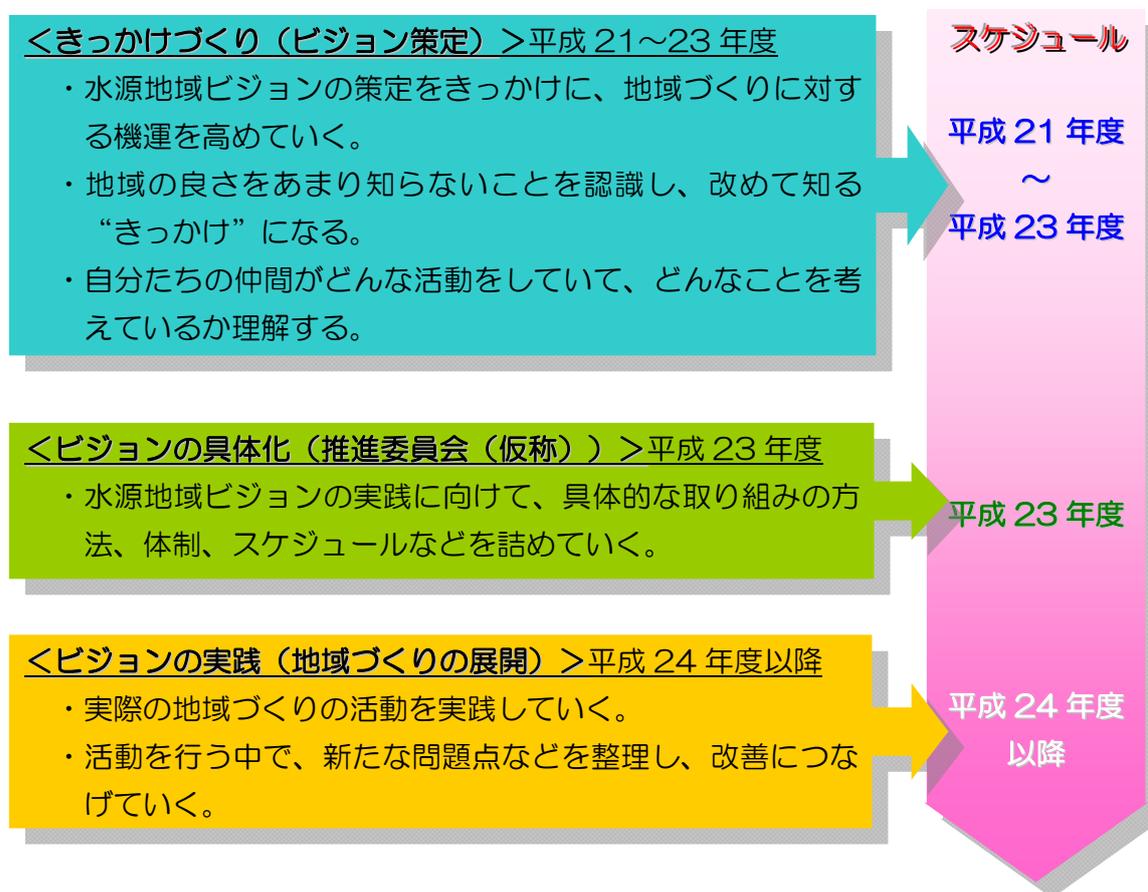
図 4-3 特筆すべきポイントの傾向図

### 3. 実現化の手順とスケジュール

水源地域ビジョンに示す施策展開を着実に実行していくために、まずは、既往の地域活動から実現化に向けての動き出しをはじめめる。

その後、地域活動のネットワークの形成・拡大や地域の意識醸成を図り、水源地域ビジョンの実現化を推進していくものとする。

そのスケジュールとしては、平成 23 年度上半期に大山ダム水源地域ビジョンを策定、下半期に具体的な活動を実践する大山ダム水源地域ビジョン推進委員会（仮称）を設立し、平成 24 年度以降にビジョンの実践展開を図る。



### 4. 実現化の担い手

水源地域ビジョンの活動は、住民、市民団体、各種団体が主体となって水資源機構、自治体、下流域の住民・企業とともに、協働で臨む。

協働する住民、市民団体、各種団体、行政、ダム事業者は対等な立場で臨み、各個人・団体・組織が「WIN・WIN」関係を構築できるよう取り組むものである。

